



雪の日の光華殿

昨年、平成28年5月31日、天皇陛下は皇后陛下とご一緒に都立小金井公園の地へお久しぶりにお出ましになった。ここ小金井には戦後暫くの間、光華殿(紀元二千六百年記念式典会場)を中心として東宮仮寓所と学習院中等科の学舎があった。昭和21年4月中等科にご進学になった当時の東宮殿下はこの学舎でご修学になり、昭和24年高等科にご進学



清明寮南面窓から顔を出した寮生たち

になると小金井の仮寓所から目白にご通学なさることとなった(学習院中等科は高田馬場に移った)。その際に当時の東宮御教育参与小泉信三先生他ご関係者のご進言もあり、英国のパブリックスクールと日本の旧制高校の寮を模して高等科各学年の寮生計約20名から成る学生寮“清明寮”が設けられ、東宮殿下も一寮生としてご参加になり、休日を除く殆どをこの寮で質実剛健で規則正しい生活をお送りになった。この清明寮の建屋は敷地の東側、一番奥にあり、戦時中に文部省の教学練成所の寄宿舎として建てられた木造平屋の極めて質素なものであった。東宮殿下が高1、高2とこの地からご通学になっている間に目白に鉄筋コンクリート3階建ての新しい寮舎が出来て小金井の清明寮はその役目を終え、東宮殿下は高3と大学1年を目白の清明寮でご生活になった。天皇陛下が公務ご多忙の中、おかつろぎの場として小金井にお越しになり青少年時代を懐かしくご回想になったことは、同時期に小金井で生活を共にさせていただいた者として感無量である。

になると小金井の仮寓所から目白にご通学なさることとなった(学習院中等科は高田馬場に移った)。その際に当時の東宮御教育参与小泉信三先生他ご関係者のご進言もあり、英国のパブリックスクールと日本の旧制高校の寮を模して高等科各学年の寮生計約20名から成る学生寮“清明寮”が設けられ、東宮殿下も一寮生としてご参加になり、休日を除く殆どをこの寮で質実剛健で規則正しい生活をお送りになった。この清明寮の建屋は敷地の東側、一番奥にあり、戦時中に文部省の教学練成所の寄宿舎として建てられた木造平屋の極めて質素なものであった。東宮殿下が高1、高2とこの地からご通学になっている間に目白に鉄筋コンクリート3階建ての新しい寮舎が出来て小金井の清明寮はその役目を終え、東宮殿下は高3と大学1年を目白の清明寮でご生活になった。天皇陛下が公務ご多忙の中、おかつろぎの場として小金井にお越しになり青少年時代を懐かしくご回想になったことは、同時期に小金井で生活を共にさせていただいた者として感無量である。



雪の日の清明寮 渡り廊下



「渡辺先生結婚式」 雪人形作りの戯れ

実はこれを遡る平成27年10月2日、天皇陛下が高1から大学1年までの4年間、清明寮で寮生であった者達(陛下を含め35名)が久しぶりに親睦会を催した。会場は発起人であり、且清明寮の初代委員長であった松本 洋氏のご好意により麻布の国際文化会館で行った。当日常陸宮殿下のご出席は叶わなかったが、陛下は大変おかつろぎになりお喜びであった。皆々久しぶりにご歓談頂く機会を得て大満足、幹事を務めた者として恐悦至極であった。

当日展示するために清明寮に関する資料を収集したので、それらを学習院大学史料館に保管願うこととした。

両陛下の小金井へのお出ましの後、暫くして「陛下の生前退位」に関するNHKのスクープである。そして8月8日には「陛下のお気持ち」表明のテレビ放映があった。この機会に陛下が皇太子殿下として終戦を迎えられ戦後を乗り越えてこられた歴史の一端として、小金井中等科と小金井清明寮を史実として考究することは大いに意義あることと思う。

折しも平成28年10月、清水明雄著「清水文雄「戦中日記—文学・教育・時局—」という本が笠間書院から出版された。清水文雄先生は戦中戦後学習院教授として主に中等科で国文学を教えられた方で明雄氏は先生の御子息である。清水文雄先生は三島由紀夫の才能を見出し、三島由紀夫という文筆名の名付け親として高名な方であるが、学習院教授として当時の逼迫した

戦況と戦後の荒廃した状況の中であって、学習院中等科を、特に近々皇太子殿下にご進学になることを考慮していかなる体制にするかという難問題についていかに検討され実行されていったかが生々しく克明に記述されている。先生は我々のクラスの主管でもあった。東宮殿下の一学年上のクラスとして中等科1年は目白でなく日光の金谷ホテルの二荒山塾で勉強、終戦後は沼津の遊泳場(ガラス戸なしで冬を越した)での集団生活、2年になっても目白でなく小金井へ通学しなければならなかったがその理由を今更ながら知ることが出来た。我々には「混沌とした社会を離れて清く正しい生活をしながら勉強するため」との説明だったが、山梨院長先生はじめ諸先生方のご苦勞下さったことに頭の下がる思いである。また、この先生の日記によって、清水文雄先生が広島大学へ移られるまでの間、小金井初期の学寮・光雲寮の舎監を務められたことを知った。

今年の冬は久しぶりに寒さが厳しい。小金井清明寮が幕を閉じた昭和26年の冬も寒さ厳しく3月には大雪が降り、光華殿や清明寮を始め小金井一帯は真っ白に雪に埋もれた。冬休み中の寮生は若さに任せて雪に戯れた。そうした中、関係された先生方寮生の先輩をお招きして閉寮の催しを行い、全員で“蛍の光(Auld lang syne)”を斉唱したことを懐かしく思い出す。



小金井清明寮最後の日 蛍の光合唱風景  
♪Should auld acquaintance be forgot, And never brought to mind?...♪  
懐かしく思い出す

## 清明寮の会の歴史

昭20/8 ← GHQ監督下 → 昭27/4

昭22/3

私立学校となる

昭24/4

新制大学を開設

昭26/4

目白清明寮完成

昭31

学習院が所有権買取

| 年 度  | 昭21 | 昭22 | 昭23 | 昭24 | 昭25 | 昭26 | 昭27 | 昭28 | 昭29 | 昭30 | 昭31 | 昭32 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 寮の名称 | 光雲寮 |     |     | 清明寮 |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 場 所  | 小金井 |     |     | 目白  |     |     |     |     |     |     |     |     |

| 御在寮期間               | ※   |  |     | 皇太子明仁親王殿下 |      |     |     |
|---------------------|-----|--|-----|-----------|------|-----|-----|
|                     | ※   |  |     | 義宮正仁親王殿下  |      |     |     |
| 学習院担当               | 中等科 |  | 高等科 |           | 大学   | 高等科 | 大学  |
| 寮生数<br>(平成27年時点生存者) |     |  | 39名 | 30名       | 20名  | 29名 | 68名 |
| 寮生であった者の<br>会の名称    |     |  | 清明会 |           | サモア会 | 清星会 |     |

※両殿下とも光雲寮で余暇を過ごされ、また行楽行事に参加された

開寮に尽力下さった方(敬称略): 安倍能成、小泉信三、野村行一  
お世話になった舎監の先生方(敬称略): 高等科: 渡辺末吾、高橋亮三、田中政次、大学: 石上太郎、磯部忠正、鈴木正三

恐れ入りますが、画像の閲覧をご希望の方は  
ミュージアムレター本紙をご覧ください

宮島清氏  
プロフィール  
昭和7年(1932)  
8月生れ。学習院  
初等科~高等科を  
経て昭和30年(1955年)3月東京大学工学部を卒業して三菱重工(株)に入社、平成3年(1991)6月三菱重工(株)取締役開発本部長となる。この間、ディーゼルエンジンを主体にトラック・バスの開発業務に従事したが、後半、特に自動車工業会の公害対策部会で騒音と排気ガス対策に注力した。学習院では皇太子殿下の1年年長のクラスで、戦中、沼津・修善寺・日光へ疎開、戦後は小金井の中等科に通学。高2~高3の2年間、小金井の清明寮で寮生活をした。